

1 題材名

『え、60年前は、千葉駅はちがう場所にあったの?』 <3年社会科学習・総合的な学習の時間>

～千葉の鉄道の130年の歴史を振り返り、水運から鉄道によって移り変わる千葉市の町の変化を考えよう～

2 授業の主な内容とそのわらい

- (1) 千葉市の鉄道の歴史は、1894年（明治27）民間鉄道会社の総武鉄道が「市川～佐倉」鉄道を開設した時から始まる。その後、日露戦争の影響もあって鉄道が国有化（国鉄）されたり、関東大震災で千葉駅が半壊したりを繰り返して戦後を迎える。1963年（昭和38）には今の市民会館前にあった千葉駅が現在の場所に移って千葉の町の様子は大きく変わる。その後千葉都市モノレールが開設されるという歴史をたどってきた。鉄道や交通は市民の生活と密接に関連しているので、鉄道によって大きく影響を受けた千葉の町の移り変わりを、3年生でも分かりやすく学習を組み立てていきたい。
- (2) 中心的な題材は、①千葉常重が開いた千葉の町は、当時から江戸時代にかけて都川と江戸湾を使った水運が盛んだった。②明治時代以降は千葉県庁が千葉町に置かれたこともあり、明治27年（1894）今の市民会館前に旧千葉駅ができた。③大正10年（1921）に当時海岸線の近くに京成千葉線が開通して、海水浴や潮干狩り客が遠方から利用するようになった。④戦後、戦争で焼け跡になった千葉の町を復興するため現在の場所に新しい千葉駅が移転した。新しい千葉駅前通りには多くの店や建物が並んで、新しい中心街が作られ、人が多く集まる新しいにぎやかな場所に生まれ変わった。

3 指導計画上の位置付け

- 3年生社会科小単元「千葉市の交通のうつりかわり」の授業と関連づけて行う発展的な社会学習や総合的な学習です。
- 先生方の要望により「千葉市の歴史を学ぶ総合的な学習」として、内容を部分的に入れ替えることは可能です。

4 予想される授業の流れと指導資料

- ①船・鉄道・自動車の3つの輸送手段について、その特徴のヒントを示しながら、千葉の町ではどの順番で発達してきたのかを考えて、3つの輸送手段を古い順番を並べるように予想する。また、当館の五大力船の動画や解説パネルを提示して、江戸時代には海上交通が主な輸送手段で、千葉の町でも寒川港や登戸港からは江戸や関東地方に魚や炭をたくさん運んでいたことを資料から読み取る。
- ②明治27年（1894）の総武鉄道（私鉄）市川～佐倉間の鉄道路線を大型千葉市地図で紹介して、その後房総鉄道の千葉～大網間の外房方面や、国鉄の本所～千葉間等の路線が次々にできたことを読み取る。さらに、大正時代は旧千葉駅前から続く通りが千葉市の一番のにぎやかな場所であったことを写真や資料から話し合う。
- ③埋め立て前の京成千葉線の路線図を示して、千葉市成立（大正10年）とほぼ同時にできた千葉線は当時海のそばを走っていた路線であることを読み取り、当時の沿線にそばにできた海の家や写真から、海水浴や潮干狩り客が多く利用していた鉄道であったことを理解する。
- ④戦後の復興として新しい千葉駅が作られたことを資料から読み取り、新しい千葉駅の駅前通りにはデパートや多くの建物が建ち並び新しい千葉の街並みができたことを理解して、鉄道が千葉の町の形成に大きな影響を与えたことを理解する。

<活用する資料>

- ◎当館の近現代の展示パネル
- ◎「史料で学ぶ千葉市の今むかし」（郷土博物館発行）
- ◎「写真集 明治大正昭和 千葉」（国書刊行会発行）
- ◎「写真アルバム 千葉市の昭和」（いき出版発行）
- ◎令和3年度「高度成長期の千葉」特別展図録（郷土博物館発行）
- ◎当館所蔵の写真や資料等

5 指導上の留意点、その他

- ◇この学習は、3年生の社会科学習として作成していますが、内容を部分的に入れ替えながら千葉市の昔を調べる「千葉開府900年」用の授業として、総合的な学習にするは可能です。具体的な内容は、各学校との相談時によく話し合ってください。
- ◇鉄道について千葉市の歴史を振り返ることは、中学年では千葉の町の成り立ちを理解する大切な郷土学習だと考えます。鉄道によって大きく変わっていった千葉市の昔と今の町なみや人々の生活を比べながら、千葉の町について新しい発見を見つけながら、現在にいたる自分たちの生まれ育った郷土への愛着を深めていきたい。